

平成29年度 海外教育事情視察研修 報告

研修者《宗谷管内》

研修実施日

研修先

礼文町立香深井小学校 虻川 康士

7月29日(土)～8月4日(金)

LADBROOKS SCHOOL (クライストチャーチ)

FAIRFIELD INTERMEDIATE (ハミルトン)

ST. THOMAS SCHOOL (オークランド)

EDUCATION NZ (政府教育機関)

はじめに

平成29年度 第44回海外教育事情視察団20名の一員として北海道小学校長会から参加をさせていただきました。ニュージーランドの画期的な教育現場を視察することで得たものをしっかりと持ち帰り、これからの教育活動や学校づくりに生かすことと全国各地域の校長先生方と様々な交流・情報交換をすることを大きな目標に掲げ、ニュージーランドの視察研修に参加した。

1. 学校視察

①LADBROOKS SCHOOL

クライストチャーチのセロウィン地区にあるプライマリースクールで全校児童137名の小さな学校。校長は一人一人がしっかり把握できるので、この大きさが一番良いと話していた。授業はどのクラスも少人数で実施されており、教科書はなく個に応じたそれぞれの課題に取り組んでいる。教室には一人一人の決まった机がなくソファやいす腰掛け授業を受けている。姿勢などはともかくどの子も集中し問題に取り組んでいるのには驚いた。低学年の授業は、遊びを中心に小グループに分かれ様々な活動に取り組んでいた。具体的なカリキュラムは、校長が作成している。授業は、読み・書き・計算が中心だが、活動を通して学ばせる子どもたちが学びたいように授業をつくっているようで、教師の力量が大きく反映する。



②FAIRFIELD INTERMEDIATE

ハミルトンにある7年生・8年生の2年間を対象とした550人(7年生～300名, 8年生～250名)の学校。厳粛なマオリ式の歓迎を受け視察が始まった。全校生徒による歓迎の儀式は圧巻の一言で生徒の態度も素晴らしかった。マオリの文化や風習・踊りなど授業の中で週に1回ほど設定されている。アカデミープログラムが充実しており、21世紀に必要な教育として、テクノロジー(技術系)・コミュニケーション・ホスピタリティ等様々なプログラムが設定されている。学校案内をしてくれたのが、日本人の子で日本の学校と比べてどうかと尋ねたら、「日本のようにみんな同じことをするのはではなく、それぞれ違ったことができるところがとても良い。みんな個性があって、それを伸ばせるところが良い」と言っていた。



③ST. THOMAS SCHOOL



オークランドの閑静な住宅街のある Year0～8 までの小中一貫校で学校の敷地も広大で設備も大変充実した学校。全校生徒は817名。約半分は生粋のニュージーランド人ではなく、世界各国から学生を受け入れている。そのため、保護者の中には、学校の経営方針（英語）などよく理解していない家庭もあるという。Passion・Leadership・Excellence・Connection を校訓としている。

授業は、日本のように机に座って全体で指導している学級もあれば、個々の課題をタブレットやPCを使ってレポートにしているクラスもあった。ICTを取り入れた授業が充実している。

学校の運営理事会は、校長・保護者・教師・地域・生徒代表の選挙で選ばれた5名で構成され、学校の運営に関わる話し合いが行われている。学校の方針・活動、予算など、ここの関係・信頼が大切となる。

2. 教育制度・教育行政

Education NEW ZEALANDを訪問し、ニュージーランドの教育事情について説明を受けた。特徴の一つとして、学校がBoT（Board of Trustees）という学校運営理事会によって運営されており、国の方針・基準もあるが、学校の独自の方針・工夫に任せている。いわゆる地教委がなく、学校も国立（もちろん、プライベートスクールは存在する）で、学校は予算やその他、日本で言うと直接文部科学省と交渉することとなる。国からの学校予算は、保護者の生活水準によって10段階のレベルに分けられ、裕福な地域には予算が少なく設定されている。学校理事会によって、校長の採用が決まり、校長は職員の採用に直接関われる。校長は自校の教育方針を定め、教育活動を行うのであるが、教育活動の評価をERO（Education Review Office）が実施し、その結果・各学校の教育のレベルをネットで公開している。このEROの訪問にかなり神経を使っていると正直に話してくれた校長もいた。



ニュージーランドの義務教育は、6歳から13歳までではあるが、5歳の誕生日を迎えると入学が許可されるため、Year0として入学してくる。日本のような節目としての入学式はない。セカンダリースクールでは、15歳から17歳（11年生～13年生）の各修了時に試験がある。卒業試験は、国家試験となり、合格すると大学進学と海外留学ができるようになる。

3. おわりに

今回の視察で特に印象に残ったことは、各学校長の自信と誇りである。校長は、自校の工夫や努力で経営を国から任されている部分が大きいので、自校の明確な方針を持ち、信頼できるスタッフとPTAの協力・理解を得ながら、独自の教育活動を着実に推進している。授業及び活動・取組の達成度・充実度は子どもたちを見ているとその答えがはっきりと分かった。伸び伸びとした中にも規律正しく、そして自信に満ちたすがすがしい笑顔の子どもたちで学校があふれていた。未来を見据え、子どもたちのために何ができるか、保護者や地域に理解を求め職員・スタッフと一丸となって教育活動を推進していく姿に強く感銘を受けた。他校との交流、その他BoT・PTAの会議、さらには学習活動のWebへの公開等校長の仕事は山ほど有り、帰宅時間もかなり遅いと聞いた。その中でも、瞳を輝かせながら学校の未来や子どもたちの成長についてお話ししていただいた各校長の笑顔が今も心に残っている。